

# オンデマンド 広報セミナー 2022

日本広報協会では、動画配信による広報セミナーを12月2日（金）から19日（月）まで開催します。今回は、今後のシティプロモーションの展望、自治体ウェブサイトの現状と課題、アンコンシャス・バイアス、伝わるデザイン、スマートフォンによる動画撮影・編集術など、今、広報広聴担当者が知っておきたいトピックスの講義のほか、参考になる自治体広報事例をお届けします。

## プログラム

### 講義 | 各約60分～90分

- 1 今後のシティプロモーションの展望  
関東学院大学准教授、社会構想大学院大学特任教授 牧瀬 稔
2. 自治体ウェブサイトの現状と課題  
自治体広報広聴研究所代表理事 金井茂樹
3. なぜCMは炎上するのか？  
同質性のリスクとアンコンシャス・バイアス  
ジャーナリスト 相模女子大特任教授、昭和女子大客員教授 白河桃子
4. 伝わるデザイン  
～読みやすく、見やすく、魅力的な広報紙やチラシ、ウェブサイト  
千葉大学大学院理学研究院 日本学術振興会特別研究員 片山なつ
5. スマートフォンで作るPR動画の撮影・編集術  
映画制作体験プロデューサー 渡川修一

### 事例発表 | 各約10分

1. 「やさしい日本語」の活用推進  
福岡県糸島市
2. 住民の心をつかむチラシの作り方  
東京都足立区
3. インスタグラムテイクオーバーの活用  
神奈川県平塚市

- 主催 公益社団法人 日本広報協会
- 後援 内閣府、総務省、全国知事会、全国市長会、全国町村会（予定）
- 配信期間 2022（令和4）年12月2日（金）13時～12月19日（月）18時
- 配信方法 Vimeoによるオンライン配信  
※Vimeoへの接続トラブルなどには対応しかねます。ご了承ください。
- 受講費 会員：5,500円（税込み） 会員外：9,900円（税込み）  
※全てのプログラムを受講できます。個別プログラムの販売はありません。
- 申し込み方法 **ウェブフォームからお申し込みください。**

<https://e-ve.event-form.jp/event/39363/kohoseminar2022>

ウェブフォームからのお申し込みができない場合は、当協会サイトからファクシミリ用参加申込書をダウンロードして印刷し必要事項をご記入の上、送信してください。 <https://www.koho.or.jp/seminar/koho/info.html>

- 支払い方法 請求書をお受け取り後、11月25日（金）までに受講費を指定口座にお振り込みください。お振り込みが確認された方に、12月2日（金）午前中に広報セミナー受講サイトにアクセスできるIDとパスワードをメールでお送りします。

#### 【キャンセルについて】

お申し込み後、キャンセルされる場合は、メールかファクシミリでご連絡ください。折り返し所定の手続きについてご連絡いたします。

キャンセル料が発生する場合は別途、請求書をお送りいたします。お振り込み期限までにお支払いください。すでに受講費をお振り込み済みの場合は、差額をご返金いたします。返金口座をご連絡ください。キャンセル料は、受講費お振り込みの有無にかかわらず下記のとおりです。

- 11月24日（木）まで：無料
- 11月25日（金）から11月30日（水）：受講費の30%
- 12月1日（木）以降：受講費の全額

- 備考 **【メール受信設定のお願い】**  
送信元は「send@event-form.jp」になります。「send@event-form.jp」からのメールを受信できるように設定をお願いいたします。

- 問い合わせ先 〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-15-9 さわだビル 10F  
公益社団法人 日本広報協会 事業部 電話：03-5367-1701

講義 1 | 約 60 分

## 今後のシティプロモーションの展望

関東学院大学准教授、社会構想大学院大学特任教授  
牧瀬 稔氏

2021年に実施された「全国シティプロモーション実態調査」から明らかになったシティプロモーションの現状を紹介。今後のシティプロモーションはどう変化していくのか、自治体はどのように対応すればいいのか、アンケート結果や事例を交えながら考えます。

### ■プロフィール

横須賀市役所（都市政策研究所）、日本都市センター研究室、地域開発研究所を経て、2017年4月から関東学院大学法学部地域創生学科准教授。社会構想大学院大学特任教授などを兼ねる。2022年度は、北上市、日光市、ひたちなか市、東大和市、新宿区、西条市、高浜町議会などで政策アドバイザーを務める。著書に、『地域づくりのヒント 地域創生を進めるためのガイドブック』『新時代の地方創生— わがまちに「東京ガールズコレクション」が!?!』『地域ブランドとシティプロモーション』など。

講義 2 | 約 60 分

## 自治体ウェブサイトの現状と課題

自治体広報広聴研究所代表理事  
金井茂樹氏

自治体ウェブサイトの品質向上を図るためにはどうすればいいのか。ウェブサイトの“品質フレームワーク”を紹介するとともに、自治体ウェブサイトの現状評価と課題解決について考えます。

### ■プロフィール

広報アドバイザー、専門統計調査士、ウェブ解析士、デジタルアーキビスト。1994年～2014年、自治体職員。2015年、法政大学大学院公共政策研究科博士後期課程修了 博士（公共政策学）。全国広報コンクール・ウェブサイト部門審査員。研究分野は、自治体コミュニケーション論、議会広報、社会調査、テキストマイニングなど。

## 講義 3 | 約 60 分

### なぜCMは炎上するのか？ 同質性のリスクとアンコンシャス・バイアス

ジャーナリスト 相模女子大特任教授、昭和女子大客員教授  
白河桃子氏

「アンコンシャス・バイアス」とは、自分自身では気づいていない無意識の思い込み・偏見のことです。これは、ときに誰かを傷つけたり、生きづらさを引き起こしたりする原因にもなります。自分の中にあるアンコンシャス・バイアスに気づくことの大切さと、広報担当者はどうあるべきかについて考えます。

#### ■プロフィール

住友商事、外資系金融などを経て著述業に。ダイバーシティ、働き方改革、ジェンダー、女性活躍、ライフキャリアなどをテーマに著作、講演活動を行う。また、「働き方改革実現会議」「男女共同参画会議重点方針専門調査会」「テレワーク普及展開方策検討会」など多数の政府の委員を歴任したほか、日本証券業協会 SDGs 推進委員なども務める。著書に『ハラメントの境界線』『御社の働き方改革ここが間違ってます!』など。

## 講義 4 | 約 90 分

### 伝わるデザイン ～読みやすく、見やすく、魅力的な広報紙やチラシ、ウェブサイト

千葉大学大学院理学研究院日本学術振興会特別研究員  
片山なつ氏

「読みやすく、見やすく、魅力的な資料」を作り上げるのは簡単なことではありません。その原因は、デザインの基本ルールを知らないことにあります。ユニバーサルデザインにも配慮した、読みやすさと見やすさ、分かりやすさを最大限高めるための「伝わるデザイン」を学びます。

#### ■プロフィール

筑波大学（学部）と東京大学（修士課程）を経て、2012年、金沢大学自然科学研究科修了、博士（理学）。2010年に「伝わるデザイン | 研究発表のユニバーサルデザイン」を開設。2017年から「オフィス伝わる」の運営を始める。著書に『伝わるデザインの基本 増補改訂3版 よい資料を作るためのレイアウトのルール』など。

## スマートフォンで作る PR 動画の撮影・編集術

映画制作体験プロデューサー  
渡川修一氏

「動画を撮る」「編集する」「公開する」、今はこれらが全部スマートフォン1台でできます。短い尺であれば、まちの PR、イベントレポート、人物インタビューほか、さまざまな動画に対応できます。相手に制作意図をしっかりと伝えることができる動画を作るためにはどうすればいいか。スマートフォンでできる撮影・編集のコツテクニックを学びます。

### ■プロフィール

1994年にビデオカメラ1台で映画制作を開始。数々の失敗を繰り返しながら20作品を監督。第23回東京ビデオフェスティバル入賞。第1回JASRAC音楽文化賞受賞。2003年から初心者向け映画ワークショップを開始。インタビューや企業紹介動画も数多く手掛ける。著書に、『iPhoneで作ろうビジネス動画の教科書』など。

## 事例発表 | 各約 10 分

### 1. 「やさしい日本語」の活用推進

福岡県糸島市

災害時だけでなく、暮らしのさまざまなシーンで活用される「やさしい日本語」。糸島市では、職員向けの『「やさしい日本語」の手引き』だけでなく、住民向けの『誰にでもわかりやすい多文化共生の超入門』を作成。「やさしい日本語」活用推進の取り組みを紹介します。

### 2. 住民の心をつかむチラシの作り方

東京都足立区

足立区は、チラシの構成やデザインを変えていったことで、イベントの参加者数が増えたり区の事業に関心を持つ人が増えたりただけでなく、区のイメージアップにもつながりました。その取り組みをまとめた書籍『住民の心をつかむ 自治体チラシ 仰天! ビフォーアフター』を発刊。区の広報物改革の取り組みを紹介します。

### 3. インスタグラムテイクオーバーの活用

神奈川県平塚市

平塚市は、市公式インスタグラムの若い世代のフォロワー数を伸ばすために、市の高校生にアカウントを公式に乗っ取ってもらう「インスタグラムテイクオーバー」の手法を活用。高校生ならではの視点で平塚の魅力を発信し、フォロワー数は5倍以上に増えました。若年層世代を巻き込むSNSの取り組みを紹介します。